

A. 千葉県の財政状況の改善

県債残高は2018年度末で約

3. 1兆円（一般会計決算規模の約1.8倍）。しかも、その半分強の約1.7兆円は資産の裏づけのない赤字地方債。

この状況に対し、県の総務部長は「制度改正を国に求める」と昨年9月に情けない答弁（秋葉傍聴）。

八千代市での財政改善の実績を生かして、県の財政改善を求めます。

例えば、東葉高速など第3セクターの役員への県からの天下り規制などやれることは多い。

また、市長時代の経験を生かして、外部専門委員・公募市民委員・無作為抽出市民委員による外部評価・事業仕分け等でムダを削り、予算の組み替えを実現します（聖域なし）。中長期的な人口減少・高齢化を見込んだ公共施設の再編も必要（市長時代の公共施設マネジメントの導入経験を生かします）。

B. 県民自治・県民参加の県政運営

4年あれば、知事が県内全市町村で知事タウンミーティングを行うことは可能。37市と17町村だから、町村は2つで合同開催とすると、年に12ヶ所弱でよい。十分可能だ。

また、県の基本構想・基本計画の改訂にあたっては、無作為抽出の県民も参加するワークショップを公開で開催し、県民のニーズを直に把握した上で行うべき。特に、10～30代の若者の意見を聴く機会の創出が大事。

C. 東葉高速鉄道の利用者負担の軽減

東葉高速鉄道の通学定期券の割引率の引き上げ（2割の値下げ）は秋葉が八千代市長の時に実現。

しかし、依然として負担は重い。通学定期の追加値

住み続けたいと思える千葉県に（八千代市から）

秋葉就一は

市長経験を生かして、県政を改善します

下げ、運賃の値下げ、回数券の実質的な値下げ（同額で枚数増、使用期間・時間の延長等）、1日券や3日券の販売期間の延長等、やれることは多い。

D. 防災の強化：1号幹線対策他

市内1号幹線（旧高津川）の溢水対策には花見川改修、隣接市を含む雨水浸透や雨水貯水などが必要。大地震・大雪時等の帰宅困難者対策の強化。

また、市内北部で公共下水道の汚水管が大雨時にあふれることがあったが、市外の不明水対策が急務。市長時代の多くの異常気象対応の経験を生かします。

E. 児童虐待の防止・削減

2019年1月、野田市で小4の女の子が児童虐待で死亡した。

個人情報であるアンケートの回答を開示してしまった野田市教委の対応は全くおかしい。行政は回答の有無自体を教えるはならない条例がある。

「アンケートには（父親から暴力を受けているとの）ウソを書いた」という、子どもが書かされたウソの手紙を父親が持ってきて、「ウソを書かされた手紙」とうすうす気づきながらも、心愛ちゃんを自宅に帰してしまつた県の柏児童相談所の問題も大きい。県の児童虐待防止行政の抜本的な改善を求めて実現させます。

★その他の大事なこと★

●保育・介護の従事者の待遇改善（単なる月給・時給引き上げだけでなく、育児休暇取得や再就職支援なども重要。）

●県立広域公園駐車場の1時間超2時間以内の利用者の負担軽減

●再生可能エネルギーの利用促進（昨年7月には匝瑳市のソーラーシェアリングを視察。耕作放棄地対策ともなるので重要。）

●谷津・里山の保全とメガソーラー新設時の防災考慮・水源考慮・近隣合意考慮（国が手続きを整備するまでの間、県的要綱等で対応が必要。）

●子ども医療費助成の県費負担年齢の拡大
秋葉が市長時代に実現した子ども医療費助成の対象年齢の拡大で八千代市の一般財源負担は2億円近く増えてしまった。県内格差を減らすためにも、県による助成対象年齢の引き上げは必要。

●介護予防・認知症予防の推進
秋葉は市長時代に認知症サポーター養成講座の回数を2.4倍に増やしました。また、昨年10月から市民後見人養成講座を受講して修了。こうした知識・経験を生かして県に市町村を支援させます。

●県道船橋印西線の渋滞対策、296バイパス右折レーンの整備で県道の渋滞解消を目指します。296バイパスの佐倉市との市境の開通。

●化学物質と農薬の使用量の削減

●武器見本市及び東海第2原発の再稼働の中止

秋葉就一選挙事務所

八千代市萱田2242-27
TEL 047-405-2502 FAX 047-489-5407
akibasanka@yahoo.co.jp
<http://shuichi.akiba.coocan.jp/>